

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	多様性を認める学校づくりについて、意見を寄せたい。パブリックコメントはどのような形で実施するのか？	現在は計画(案)の説明を行っているところであり、7/24まで開催される説明会が全て終了した後、ご意見を反映した計画(案)を公表し、市の公式サイトや市役所各庁舎、公民館等で市民からの意見を募集するパブリックコメントを7月下旬～8月下旬にかけて行う。その後、最終的な学校再編計画を策定し、議会等への報告を経て、教育委員会で決定する予定である。また、今回の説明会やパブリックコメントで寄せられたご意見とそれに対する回答は、市の公式サイト等で公表する。
	義務教育学校に魅力を感じた。通学区域外からの入学は可能か？	現在、お住まいの住所から児童生徒が就学する学校を指定しており、指定校の変更は一定の要件に該当する場合を除き認めていない。学校再編後も、指定校変更は現行基準での運用を考えているが、これまでの説明会でも同様の意見が挙がっており、区域外通学のご要望があることは理解している。
2	今回の学校再編計画について、学校数が大きく変わることになるが、予算規模はどの程度か？	現時点では計画(案)であるため、今後、保護者や地域住民等の意見を反映した上で計画を成案とする。具体的な費用については、その後試算する予定である。
	また、今後の教育の質についてどう考えているか？	学校再編がどのように柳川市の教育の質の向上に繋がるかというご質問だと思う。再編により学校の規模が大きくなり、子どもと教職員の数が増える。まず、子どもの数が増えることで、子どもたちは多様な価値観に触れながら育つことができるようになる。現在学校に求められるのは、多様性への対応である。いかに1人1人の良さを受け止めるかという対応に重きが置かれている。多くの子どもに触れ、時にぶつかり合うことで、子どもたちの価値観の形成に寄与できると思われる。次に、教職員の数が増えることで、職員にもそれぞれ個性があるため、1人の職員が見ている場合と、複数の職員が見ている場合とでは、後者の方が多様性への対応が可能である。この2つの観点から、教育の質の向上が可能になると思い、この学校再編を進めているところである。
	先程の予算の話に関連して、資金は建物だけに投資するのではなく、「子どもが宝だ」と言っただけなのであれば、子どもたちのため、教育の中身に使って欲しい。自分の子は再編には関わらないが、より良い教育を受けられる、行きやすい学校として欲しい。これは質問ではなく意見のため回答は不要である。	ご意見としてありがたく頂戴いたします。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	再編を機に、柳城中を廃校にし、石垣や掘割の復元工事等を行って柳川城を再建して欲しい。福岡県には10万石以上の大名家が4家あるが、九州全体で見ても柳川城は大変貴重。八女市黒木町の猫尾城跡や久留米市の発心城跡が県指定の史跡になっている。柳川城も同様の取組みを行うべきである。	文化財として貴重なものであることは重々承知しているが、再編の基準として、現在の学校配置、既存施設の活用を前提としている。柳城中学校は、通学の便が良い上に校舎の規模も申し分なく、統合後に十分な利用ができる。文化財の保存と両立を図りながら再編を進めたい。
3	柳川城再建については、署名活動など長年取り組んでいる団体がある。前向きに検討して欲しい。提案だが、矢ヶ部校区は旧柳川市地区に挟まれる形であるため、蒲池校区との統合はどうか？また、中学校について、蒲池・柳城・柳南校区を統合し、柳河小の位置に統合するのはどうか？矢ヶ部小は柳河小に近いので、部活動のサブグラウンドとしての利用も考えられる。個人的な意見であるため回答は不要である。	ご意見としてありがたく頂戴いたします。
4	通学区域について、旧市町をまたがない組み合わせということであるが、子どもたちのことを考えて、再検討すべきである。	これまでの説明会でも同様の意見がいくつか出た。再編にあたり、既存の校区を組み合わせ、かつ旧市町の範囲を超える組み合わせを行わないとした理由としては、小学校区と地域コミュニティの結び付きが非常に強いためである。また、公民館連絡協議会や区長会など多くの地域組織が旧市町のまとまりで動いている背景があり、変更すると大きな混乱が生ずることになる。
	小学校にはスクールバスが出るとのことだったが、中学校でも通学距離が遠くなる子どもがいる。中学校においても、スクールバスを出して欲しい。	確かに中学校への通学距離において、4km超の生徒が出てくることは承知している。現時点では、中学校は原則として徒歩または自転車としているが、極端に遠くなる場合は今後検討が必要だと考えている。
5	スクールバスの費用について、保護者負担はあるか？	義務教育の範囲内であるため、費用は柳川市で負担する考えである。
6	(仮称)大和小は、R6度に現中島小へ一旦移転し、6年後のR12度に現大和中に再度移転する計画であるが、2度移転するのはなぜか？また、現中島小の規模で統合後のクラス(6校×6学年)が入りきれぬか不安である。	2度の移転となれば子どもたちに負担がかかることは承知しているが、旧大和町地区については、既に複式学級の基準に合致する学校があるため、再編を急ぎ、一番最初のスケジュールとしている。また、現中島小に統合される時点では、通常学級20クラスと特別支援学級の見込みで、多目的室等を教室に改修する必要はあるが、規模は問題ないと考えている。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
7	<p>垂見校区で放課後等デイサービスを運営している。当事業所には特別支援学級に在籍する子どもが多く通っている。説明の中に「多様性」という言葉があったが、再編後の支援学級の在り方は？</p>	<p>(学校教育課長補佐)現在、特別支援学級は多くの学校に設置されており、在籍する子ども数も増加傾向にある。再編後は教員の充実が見込まれるため、活用し支援を行っていききたい。</p> <p>(首席指導官)学校再編により特別支援学級への入級の基準が変わるわけではないため、学校の規模が大きくなれば、1つの学校に設置される特別支援学級のクラス数が増えることが推測できる。そうなれば担任の数も増え、支援学級の運営方針や子どもたちへの対応方針などについて、複数人で協議しながら取り組むことができる。これまで以上に、支援の質の向上が見込まれるのではないかと考えている。</p>
	<p>今後、公立の小・中学校においても担当者会議の場を設置していただけると私共の療育の質も向上できると思う。調整をお願いしたい。回答は不要である。</p>	<p>ご意見としてありがたく頂戴いたします。</p>